

## 第6分科会

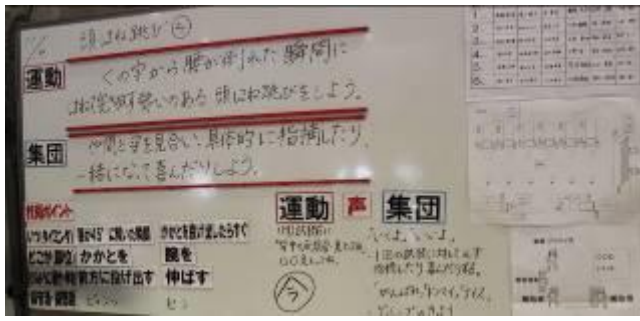
# 岐阜市立岐阜中央中学校



所在地 〒500-8804 岐阜市京町3丁目19番地  
学校長 森 社  
生徒数 398名(14学級)  
連絡先 TEL 058-265-1621 FAX 058-265-1622  
E-mail gichu02@chuou-j.gifu-gif.ed.jp  
URL <http://cms.gifu-gif.ed.jp/chuo-j/>

### 【研究主題】

主体的に運動に取り組む  
生徒を育てる体育授業の創造



運動の学習 / 運動による集団の学習



# 1 研究の概要

## (1) 研究主題

学習指導要領には、保健体育科の目標として「心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。」と示されている。この目標を受け、本大会のテーマにも「生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現させる」ことが掲げられていることから、第6分科会では、「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力」として身に付けさせたい「態度」「思考・判断」「技能」「知識」の4つの力から、特に、「主体的に運動に取り組む態度」を育てることに焦点をおいて実践に取り組んだ。

岐阜県では、これまで体育の授業を「運動の学習／運動による集団の学習」と考えて指導してきた。授業構造の中核を「運動の学習」、基盤を「集団の学習」とし、この二つの過程は相互に影響し合いながら発展していくものであると考え、実践が重ねられてきた。集団には、「所属」→「同調」→「協力」→「連帯」の段階があり、「課題」「役割」「きまり」「仲間」の集団の成立条件を整えることが、集団の学習への動機付けになり、集団的活動を通じて運動に親しむ資質や能力を育てることにつながると考えて実践に取り組んできた。

岐阜市内の中学3年生3,297名のうち、「体育の授業で楽しさやうれしさを感じたことがある」と答えた3,239名にその理由を聞いたところ、運動することや上達することと

ともに、仲間と関わり合う中で、運動の楽しさや達成感を共有できた喜びを感じている生徒が多くいることが分かった。(図1)このような生徒の実態やこれまでの実践を踏まえ、第6分科会では、社会性が高まる中学生期において、仲間と積極的に関わりながら主体的に運動に取り組む態度を身に付けさせることは、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育て、豊かなスポーツライフの実現につながるものと考えて実践に取り組んだ。本研究では、集団の様相をとらえ、その発達段階に

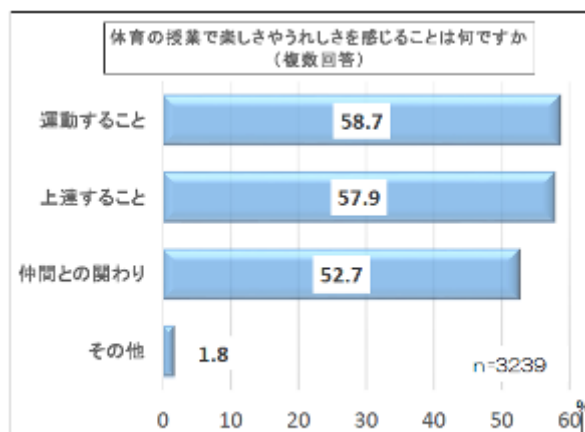


図1 体育の授業における楽しさやうれしさに関わる意識調査

応じた指導を行うことで学習集団を育てた。課題にあった学習形態を工夫したり、運動の特性を踏まえて指導過程の中に仲間の学習を援助する活動を意図的に位置付けたりすることによって、生徒の学習意欲が高まり、仲間と共に主体的に運動に取り組む態度を育てることができると考え、有効な指導内容や方法を明らかにすることを目指して研究主題を設定した。

## (2) 研究仮説

集団発達のみちすじ(「所属」→「同調」→「協力」→「連帯」)に即して、集団の成立条件を整えることによって学習集団の発達を促すことができる。また、運動の特性や学習課題に合わせて、仲間の学習を援助する活動(これ以降、相互援助活動と記す)や言語活動を指導過程の中に位置付けて指導をすることにより、仲間に積極的に関わる態度が身に付き、運動の楽しさやできた喜びを味わいながら、仲間と共に主体的に運動に取り組む生徒を育てることができる。

### (3) 研究内容

#### ① 仲間と相互に援助し合い主体的な活動ができる学習集団の育成

ア 集団の発達のみちすじに即した指導

イ 主体的な学びを生み出す相互援助活動

## 2 公開授業

### (1) 第1学年 器械運動「頭はね跳び」 授業者：森 哲也 教諭

学習課題を『くの字』から、腰が倒れた瞬間にはねて突き放す勢いのある頭はね跳びをしよう』と設定し、グループ会では、一人一人が特に意識する技術ポイントを確認め合った。また、技能観察係（PO）がそれらを集約してグループ課題を設定し、態度観察係（MO）が前時の授業の様子からきまりの守りぶりについて特に意識することを伝えた。最後に、リーダーが総括して本時の授業に向かう決意を語り、前半のグループ練習に臨んだ。

前半練習では、1人の試技に対して、2人が補助、1人が動画撮影、1人または2人がアドバイスを行い、個々の課題を把握し技能の習得を目指して意欲的に練習する姿が見られた。通常の横5段の場に加え、特設の場として「低い跳び箱の場」や「ステージからセーフティーマットへ降りる場」を設け、課題に応じて練習する姿も見られた。

中間研究会では、技能の高まった生徒に示範をしてもらい、本時の課題である「かかとの投げ出し」や「腕の突き放し」の技術のイメージを再確認した。また、後半練習で目指したい自分の姿をグループで確認し合い、発表会に向けての意欲をもつことができた。

後半練習では、特設の場で背中を押してもらいながらはね動作を練習したり、タブレット端末で撮影した試技の結果を見て、はねるタイミングを確認めたりしながら練習した。その結果、本時の終末に行った発表会では、前時よりも点数が伸びた生徒が多くいた。（グループ得点平均の伸びたグループ→5チーム/6チーム中）

グループ反省会では、本時できるようになったことやその要因について一人一人が順番に話し、POやMO、そしてリーダーが授業の学び方に関わって仲間と認め合う姿が見られた。全体反省会では、教師がリーダーの積極的な相互援助活動の良さを価値付け、次時に向けての課題意識を生み出した。本時の学習を終えた2人の学習カードを下記に示す。



Aさん（PO）

「つま先を下に向けないように意識して練習し、Bさんが、手を突き放す瞬間に『今』と言ってくれてタイミングが分かり、4点を取ることができて嬉しかったです。」

Bさん（リーダー）

「特に『手の突き放しに気を付けること』をグループ課題として話し、その内容を一人一人が覚えて練習していました。また、一人一人に合ったアドバイスをしていました。リーダーという立場で、全力を出し切って行動できたことがすごく嬉しいし、私についてきてくれた赤チームの子を誇りに思います。次回は5点の姿を目指したいです。」

(2) 第3学年 球技「バスケットボール」 授業者：林 貴樹 教諭



前時から「チームの特長を生かした攻撃をする」ことを学習課題として、グループのリーダー中心に速攻、遅攻の仕方を工夫して学習に取り組んできた。また、「仲間の技能の向上を願い、積極的に関わり合える仲間になろう」を目指す集団の姿としてとらえ、相互援助活動の活性化を図った。

課題提示においては、仲間の課題に合わせて練習を工夫し、教え合いながら練習やゲームを行い、仲間の技能が向上し、得点や勝利に結びついていることを紹介し、相互援助活動の必然性を示した。

その後のグループ計画会や練習の中では、チームの特長を生かした攻撃を行うために、仲間との話し合いから個々の課題を明らかにして練習に取り組んだり、できるまで教え合って繰り返し練習したりする姿が見られた。あるチームでは、効果的なポストプレーを行うことをグループ課題として設定し、ポストに入るタイミングが分からない生徒に対して身振り手振りをつかって教え、繰り返しポストプレーを練習していた。

全体反省会では、技能が向上した姿に加えて、仲間同士の相互援助活動によって上達した生徒の思いを紹介し、仲間と共に主体的に取り組む姿を価値付けた。



### 3 研究協議

- (1) 提案 司会者：後藤 隆正 教頭（岐阜県中学校体育研究会）  
発表者：高橋 千津子 教諭（岐阜県中学校体育研究会）

#### <本校の主張・提案>

#### ① 仲間と相互に援助し合い主体的な活動ができる学習集団の育成

#### <本校の実践>

- ア 集団の発達のみちすじに即した指導  
イ 主体的な学びを生み出す相互援助活動

#### (2) 協議内容 (□…質問・意見・感想)

※ 回答は、授業者（森教諭、林教諭）及び発表者（高橋教諭）

□ グループ編制の仕方を教えてほしい。つまり、役割を決めてからグループ編制を行うのか、グループ編制をしてから、リーダーや役割を決めるのか。またグループは、1年間同じなのか、さらにリーダーは、1年間固定なのか。

A 単元ごとにグループ編制をする。6つのグループが等しくなるようにバランスよく編制をするようにしている。役割とグループの決め方については、まず、リーダーが立候補して願いを語り、全員の承認を得てリーダーが決まる。そしてリーダー会で、技能観察係（PO）、態度観察係（MO）などを想定し、グループの原案を作る。最後に、原案を学級で検討してグループが決定する。たとえば、1年生の「跳び箱運動」では、各学級で3名ずつリーダーに立候補し、承認された。グループ編制は、教師とリーダーとで相談しながら、バランスよく、また運動の苦手な生徒が偏らないように配慮して編制し

た。その後、役割分担を自分たちで行った。

- 子どもたちと教師の一体感のあるすばらしい授業であった。本時の3年生「バスケットボール」の授業では、ゼッケン紫の4番の生徒に視点をあてた指導であった。ここまでクローズアップさせると、本人や周りが尻込みすることもあるが、それを感じさせなかった。グループの成熟を感じる。本時に至るまでのグループの様子、トラブルなどなかったか。

A 紫グループは、当初、リーダーが一人よがりのプレーをし、そのことにPOが声をかけるが、結果に結び付かないといった様子であった。このことをきっかけとして、徹底的にリーダー指導を行った。リーダーやグループの中でエースの働きをする人がシュートを決めるだけではなく、がんばっているけど、なかなか目立たない生徒が活躍できるようにするには、どうしたらよいかという問いかけをした。すると、それぞれのリーダーは、「仲間と一緒にうまくになりたい」という思いをもち、仲間の持ち味を引き出す方法をPOと考えることにした。そして、どの仲間にも積極的に関わっていくことが、変容につながったのではと考えている。紫グループの具体的なトラブルとして、リーダーとPOとのいさかきがあった。POが強く要求するあまり、周りの仲間が嫌な思いをし、仲介に入る場面があった。相手が応えようとする言葉かけもあれば、反発するような声もあったので、相手の気持ちを考えた声をかけるように指導し、POには教師が個人的な声かけをした。



- 規律ある中での授業展開であった。「跳び箱運動」「バスケットボール」は、非常に怪我が多い単元である。生徒たちにどのような安全面の指導や約束ごとの指導を行ったのか。

A 体育の授業では、生徒に「どうして規律ある授業が大切なのか。」を一年間の初めや単元の初めに確認しながら目指す体育の授業を生徒と共に描き、授業を行っている。規律を大切に理由として、「運動量を確保すること。」「学習の効果、効率の向上につながること。」「フェアプレーを目指し、安全の確保をすること。」を丁寧に説明している。また、安全確保については、リーダーやMOが見届けるようにして、教師と共に生徒たちも安全への意識が高まるようにした。「跳び箱運動」の安全確保のために具体的な約束ごとは「補助者が仲間の命を預かっているという意識で補助する。」「上達している生徒にも、必ず手を出して補助の準備をする。」「試技をするときは、笑わず真剣に行う。」「周りに物を置かない。」ということを指導した。同様に「バスケットボール」の安全の確保のための具体的な約束ごととして、「ボールを絶対に床に置かない。」「パスが逸れてボールが転がっていったときなど『危ない』と声を出す。」「ボールをかごに戻す際には、投げずに置きに行く。」「爪を切りそろえる。」ことを指導した。

- 仲間との関わりが非常に大きいということを感じた。リーダーを育てることを考えると、本時、公開されたような授業の進め方を生かしていかなければならないと思う。私の失敗として、リーダーを中心にグループで話し合いをすると、周りの生徒たちが追随しているだけの形になってしまう。そのようにならないために、リーダーを育てながら、グループの中で話し合いができる形にするのは、どんなことに留意して指導するといいいのか。

A 「バスケットボール」では、単元を貫く課題を達成するために、6つのグループがグループ課題を決め、その課題達成に向けて取り組むようにしてきた。さらに個人課題を考えて、グループ課題とのつながりをもたせるようにした。リーダーとPOとで、グルー



ブ課題を設定し、仲間にもどのように関わっていくのかを考えた。「跳び箱運動」では、グループ平均得点を出し、グループ優勝を目指すようにしている。個人種目の特性上、個人課題を大切にしながらも、グループ課題を意識して取り組むようにしている。具体的には、自分が何点の姿を目指しているのかを仲間に伝えてから、試技を行うようにした。こうすることで、個人課題を意識させな

がら、グループ平均点を上げるための仲間との関わりができるようにした。

- きびきびとした雰囲気であり、生徒たちの人間関係、コミュニケーションのよくとれた素晴らしい授業であった。学習の準備もよくされた実践であり、生徒が先生を信頼し、先生の言葉で生徒が変容する姿をたくさん見ることができた。そこで、評価の方法や最終的にどのような形で評価するのか。

A 単元の計画を立てる上で、明確な評価規準をもつようにしている。本時、何ができたらいのか、教師が明確な評価規準をもち、同時に生徒がそれを理解して行動することが運動の効率化に結び付くと考える。評価の方法としては、個人カードの記述や、リーダーやP.Oの言動を見取り、本時の課題を理解して活動しているかどうかを判断する。また、ICT機器を利用した評価も行う。単元の終わりに技能テストや発表会を行い、動画をタブレット端末で記録して評価もする。

- 「主体的に運動に取り組む生徒を育てる体育授業の創造」がテーマであるが、主体的に取り組むことができるようになってきていることが分かる指標または尺度、つまりこんなふうになら主体的に取り組むようになってきたというものはないか。

A 本実践は、岐阜市内の中学校の保健体育科教師がそれぞれの授業の場で取り組んできたテーマでもある。「自分の技能のつまずきに気付いているか。」「授業の中で練習方法を見つけて取り組んでいるか。」「仲間のつまずきに対してアドバイスできているか。」という姿を、私たちは主体的に運動に取り組む姿と考えている。指導前と指導後でこのように変容したというデータはとってないが、生徒たちの姿や言葉から主体的に運動に取り組むようになったと考えている。



### (3) 指導講評

指導助言： 鳴門教育大学准教授 藤田 雅文 先生

本時の跳び箱の授業では、場の設定が非常によく考えられている。6台の跳び箱とは別に、特設の低い跳び箱、さらに柔らかい跳び箱が設定してあった。また、跳び箱にショートマットをかぶせてあった。着地のマットは、ロングマットを二つ折りにし、青いセーフティーマットもあった。頭はね跳びは、怪我・事故が多い技であるが、できる限りの安全対策をとったものであった。

本時の「頭はね跳び」は、中学校学習指導要領解説保健体育編の中で、中学1年生の基本的な技として例示されている。今日の1年生女子生徒たちは、非常にパフォーマンスが高かった。それは、前単元のマット運動の学習とのつながりがあったからだと思う。マット運動では、倒

立、三点倒立からブリッジの練習などを積み重ね、基礎技能を高めてきた。このような学習の足跡があって、本時のパフォーマンスの高さにつながっている。

また肥満傾向の生徒がないことに驚いた。食生活、運動習慣など、家庭を含めた指導が行き届いていると感じた。さらに、皆さんが気付いたように、学習規律、集団行動がしっかりとできている授業であると感じた。これは、体育の授業だけでなく、全教科、学級経営を含めた学校全体での取り組みの成果だと思う。



グループ学習の行い方は、非常に勉強になった。通常は、リーダー、サブリーダーぐらいだが、リーダー、P O、M Oなどを設けている。特にMOが行う役割は、生徒自身がグループのきまりや学び方を観察し評価している。規律ある学びができる素晴らしい生徒だと感じた。

「跳び箱運動」は個人種目であるが、6人の出来栄で合計点を出して、グループ間で競争するようにし、集団化に取り組んでいる。集団化の方向では、集団でリズムを合わせてシンクロする取り組みもあるが、競技会に近付けていくような集団化の取り組みもできる。技の難易度で得点を付け、さらに技の出来栄の得点をつけ、合計の得点で競う競技会形式でグループ対抗戦をすることもできる。

いろんな研究校で使われているタブレット端末は、生徒の情報活用能力を高めることができる。思考・判断、知識・理解に非常に役立つ。学級に1台しかない、そこにみんなが集まってしまう、運動量が確保できず、マイナスに働いてしまうので、グループに1台ぐらいは必要である。本時は、グループに1台準備されていた。破損などが心配されたが、保管場所や使い方の指導もされていたので、非常に参考になった。

素晴らしい授業のためには、よい授業をつくりたいという情熱をもった先生と素晴らしい生徒、整った学習環境が必要であり、公開された授業のように、先生が一生懸命勉強するところといったよい授業ができることを示した発表であった。



## 4 成果と課題

### (1) 成果

集団の発達段階に即して、リーダーやP O・M O指導、トラブルに対する心情的な指導を続けてきたことで、生徒同士の結び付きが深まり、その結果、仲間に積極的に関わろうとする態度が身に付き、運動の楽しさを味わうことができた生徒が増えた。

リーダーなどを中心に、相互援助活動の視点や方法を指導することで、教え合い励まし合って運動する仲間から、運動の成果を要求し合う仲間まで発達し、生徒の主体的な学びを生み出すことができた。

### (2) 課題

今後も生徒の実態に即して学習集団の育成を行うとともに、態度面の評価の在り方やその活かし方についても実践を積み重ねていきたい。